ウェブ上でご覧頂けます　http://sp.nikkan.co.jp/tama-area/

機器メーカー

東京都の西部に位置する多摩地域にはハイテク製造業を中心としたモノづくり関連企業が集積する。代表が計測・分析機器や検査・試験装置、微細加工分野の製造業だ。ここにきて円安、補正予算などを背景に官公需の動きが活発化、各社とも堅調な伸びをみせている。景況の先行き不透明感はあるものの、各社は今後、国内での拡販とともに東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）など海外需要の取り込みを強化し、中長期の成長を目指す。有力企業６社のトップに経営方針や事業戦略などを聞いた。

日本電子

栗原 権右衛門社長

電子顕微鏡をはじめとしたハイエンド理科学・計測機器の製造・販売を事業とする日本電子（ＪＥＯＬグループ）。業界トップレベルの幅広い製品ラインアップを誇る。その強みを生かし、製品群ごとの市場へのアプローチに加えて、顧客の抱える最先端の研究開発課題に対して全製品群を集結した最適ソリューションを提供している。

全製品群アプローチ
ソリューション提供

―足元の状況は。

「過去数年にわたる経営構造改革の遂行により利益水準は改善している。超円高や欧州金融危機、中国問題など厳しい状況下ではあるが、海外での売り上げは好調に推移している。最近の円安傾向や国内科学振興予算の拡大、民需回復は追い風となっている」

―製品・技術戦略は。

「市場ニーズを反映した競争力のある装置を開発することが事業拡大の要諦である。例えば、世界最高レベルの原子分解能分析電子顕微鏡『ＪＥＭ―ＡＲＭ２００Ｆ』、タッチパネル操作が可能な走査電子顕微鏡『ＩｎＴｏｕｃｈＳｃｏｐｅ』、小惑星イトカワの微粒子分析にも使われているフィールドエミッション電子プローブマイクロアナライザ『ＪＸＡ―８５３０Ｆ』、検体・試薬の超微量化と高速分析処理を実現した生化学自動分析装置『ＢｉｏＭａｊｅｓｔｙ』などはいずれも特徴ある製品。顧客からの引き合いも堅調だ。また、製品にこれまでの理科学・計測機器の概念を覆したスタイリッシュなデザインを取り入れるなど、感覚的・情緒的な面から差別化を図る

「新興国においては中国、ブラジル、ロシア、インドに現地法人を設立し、タイにはテクニカルセンターを設置した。既存ユーザーへのサポート強化や新規ユーザーの開拓など、それぞれの市場に即した施策を行い、当社の総合力を発揮して世界市場での競争力を強化していく」

―今後の見通しは。

「リーマンショック以降、グループ関係会社の再編や固定費・コスト削減などの経営構造改革を遂行し、会社の実力は確実についてきている。２０１３年度から始まる新中期経営計画では『製品開発力』、『ものづくり力』、『ブランド力の向上』を三つの柱に据え、持続的な成長企業の実現を目指していく。外部環境の動向にたじろぐことなく、信念とスピード感を持って成長戦略を推し進めていきたい」

ブランド力の強化にも取り組んでいる」

―海外戦略をどう描いていますか。

「創立当初から常に世界で戦うことを意識して事業展開している。特に欧米市場においてはいち早く自前の営業・サービスネットワークを構築し、『ＪＥＯＬブランド』は世界で広く知られている」

会社データ

- ■本　　社＝東京都昭島市武蔵野３－１－２
- ■設　　立＝1949年5月30日
- ■資 本 金＝67億4000万円
- ■売 上 高＝831億9100万円（12年３月期）
- ■従 業 員＝２７０９人
- ■事業内容＝電子顕微鏡などの理科学・計測機器、半導体関連機器、産業機器、医用機器などの開発・製造・販売

リオン

井上 清恒社長

音響振動計測器や微粒子計測器、補聴器、医用検査機器の４分野でトップシェアを持つリオンは「環境」と「医療」をキーワードに世界展開を進める。目下の課題は音響振動計測機器の中国市場開拓だ。2012年12月に設立した現地販売子会社が４月１日に営業を本格的に開始する。環境問題が無視できなくなり、成熟しつつある中国市場をいかに取り込めるか。

中国で販売サービス
微粒子計測で新事業

―13年３月期の連結業績は。

「業績予想の売上高１７１億円、経常利益14億円の達成を目指し奮闘している。12年５月に予想を立てたときは先が見えなかった。環境計測機器はアベノミクスの円安株高もあり、主要取引先の業績が回復基調にある。公共事業の予算も順調に執行されている。不安はない」

―騒音計や振動計など環境計測機器は日本の国内市場は成熟しています。成長分野の新興国市場の取り込みは。

「まず、日本をはじめ先進国市場は成熟しているが技術革新を続けている。研究開発の手は緩めない。技術を向上させ同じパイの中でもシェアをとっていく。海外は中国の販売子会社が４月から本格始動する。今後、人数を３人から５人に増やし、少数精鋭で販売代理店の開拓、教育を進める。機器の校正、修理を現地で完結させたい。ただ中国は広い。協力企業のネットワークを確実にして、売り上げを２倍、３倍と増やしていきたい」

―高機能機市場を狙うのがトップブランドのセオリーです。具体的なターゲットは。

「空港の騒音監視が挙げられる。中国は約１５０の都市空港を持つが、騒音を監視しているのは北京空港のみだ。今後、騒音監視装置の導入が見込まれるため、現地政府への働きかけを強めていきたい。また道路、工場、住宅の三つが騒音振動計測の市場になる。性能が求められる工場や住宅の用途から提案していくことになるだろう」

―微粒子計測器事業の動向は。

「１月に発売した『ＫＳ―41Ｂ』はフォトレジスト中の１００ナノメートル（ナノは10億分の１）の微粒子を測定できる。これは世界初だ。半導体は米インテル、台ＴＳＭＣ、韓サムスン電子の３社が世界の投資の６割を占める。代理店に恵まれ、動向は把握できている」

―新事業の芽は。

「補聴器では軟骨伝導式の補聴器を開発した。市場は小さいかもしれないが、本当に困っている患者さんのために、当社が開発する意味がある。微粒子計測器では生物粒子の計測に成功している。粒子が無機物か生物か判別でき、上水道や透析液の衛生管理など幅広い市場が見込める。具体的な案件があり、１―２年後をめどに事業化していきたい」

会社データ

- ■本　　社＝東京都国分寺市東元町３－20－41
- ■設　　立＝1944年６月21日
- ■資 本 金＝12億8497万円
- ■売 上 高＝166億円（12年３月期）
- ■従 業 員＝７７１人
- ■事業内容＝医療機器事業（補聴器、医用検査機器）、環境機器事業（音響・振動計測器、微粒子計測器）の製造販売およびこれらに関連する部品、機器などの製造、販売、サービス

リガク

志村　晶社長

リガクが３カ年（2014年３月期―16年３月期）の中期経営計画を定めた。16年３月期に内部成長で売上高400億円、Ｍ＆Ａ（合併・買収）を含め600億円とする既存目標は変えていない。成長の原動力はグローバル化の推進とイノベーション（企業改革）の断行だ。ＩＴを活用し、研究・開発、生産、販売・サービスの全工程の同期化を目指す。

グローバル化を加速
企業改革も断行推進

―13年３月期連結業績の着地点をどうみていますか。

「受注・売上高ともに前期比約３％増の３２０億円前後を見込んでいる。国内より海外が良い。国内のマインドは上向いているが、企業の設備投資は増えていない。昨年11月半ばからの円安効果もあり、輸出売り上げは５％近く伸びる。昨夏以降中国が若干下振れし、インドも期待したほど伸びていない。アジアは東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）に目を向けろと言っている」

―14年３月期の経営方針は。

「『アベノミクス』の結果は待てない。グローバル化を加速するしかない。16年３月期に内部成長で連結売上高４００億円を実現するには、年率９％強の伸びが必要。14年３月期は３５０億円を目指す」

―具体的な施策を教えて下さい。

「輸出を含め海外売上高を増やすため、地域により異なる顧客ニーズに対応した迅速なアプリケーション開発、使い勝手の向上をはかる。顧客価値を最大化するための地道な努力しかない。販売量を増やし原価低減につなげる。来年度中には４、５機種の新製品も投入したい」

―海外の販売網をどう整備しますか。

「これまで、販売統括拠点を北米、中国、アジア太平洋、欧州（中東・アフリカを含む）の４カ所に設立した。今年は最後の拠点を南米に作る。ラボも併設し、新たに資源分析に挑戦したい。北米、中国、ドイツでは直販体制を敷くが、他地域では代理店販売が中心。グローバル構想の下で、いかにローカルニーズに応えて行くかが成功のカギだ」

―イノベーションへの取り組みにも積極的ですね。

「グローバル化に国内向けの人海戦術は通用しない。ＩＴを駆使した業務プロセス改革が必要だ。これまで情報を一元化したり可視化できる情報基盤を構築してきている。商品と国内外の販売地域を縦軸・横軸に置いた『マトリックス経営』が重要だ」

「一方、開発・生産・販売など全工程を同期化させることで無駄を無くし、経営効率を向上させて行く。14年４月以降に、実践的な経営ツールとして成果が出るだろう」

会社データ

- ■本　　社＝東京都昭島市松原町3―9―12
- ■設　　立＝1951年12月6日
- ■資 本 金＝１億円
- ■売 上 高＝312億円（12年３月期連結）
- ■従 業 員＝１１００人（連結）
- ■事業内容＝Ｘ線回折装置、蛍光Ｘ線分析装置、熱分析装置、Ｘ線非破壊検査装置の開発・製造・販売

原子分解能分析電子顕微鏡
JEM-ARM200F

照射系球面収差補正装置を標準搭載し、機械的・電気的安定を極限まで高めることで、商用電子顕微鏡として世界最高の走査透過像（STEM-HAADF）分解能 0.08nm を実現しました。

JEOL
Serving Advanced Technology

JEOL グループは、電子顕微鏡をはじめとした理科学機器のトップメーカーです。これからも世界の科学技術を支えるオンリーワン企業として弛まぬ努力を続けてまいります。

日本電子株式会社　http://www.jeol.co.jp/
本社・昭島製作所　〒196-8558　東京都昭島市武蔵野３－１－２　TEL：042-543-1111
営業企画室　〒190-0012　東京都立川市曙町２－８－３　新鈴春ビル3F　TEL：042-528-3381
札幌 (011) 726-9680・仙台 (022) 222-3324・筑波 (029) 856-3220・東京 (042) 528-3211・横浜 (045) 474-2181
名古屋 (052) 581-1406・大阪 (06) 6304-3941・広島 (082) 221-2500・高松 (087) 821-0053・福岡 (092) 411-2381

使いやすさを追求
計測を最大限サポートします

- ● 防水性 IP54(マイクロホン部を除く)
- ● 突然の電源断時に破損したデータを自動修復
- ● HELP機能によりマニュアルが不要
- ● 充電式の電池に対応
- ● 1ヶ月間(約1000時間)の連続測定が可能
- ● 1 Hz～20 000 Hzまでの広帯域を計測(NL-62)

精密騒音計（低周波音測定機能付）NL-62
精密騒音計 NL-52
普通騒音計 NL-42

リオン株式会社　〒185-8533 東京都国分寺市東元町3丁目20番41号
TEL. 042-359-7887　FAX. 042-359-7458
http://www.rion.co.jp/

株式会社リガク　〒196-8666 東京都昭島市松原町3-9-12 電話(042)545-8111〈代表電話案内〉FAX.(042)544-9795
●東京　●大阪　●東北　●名古屋　●九州　●URL http://www.rigaku.co.jp/